

ノーモア・ヒバクシャ通信 第45号

2019年3月15日

ホームページ <http://www.kiokuisan.com/>
継承ブログ <http://keishoblog.com/>
フェイスブック <https://www.facebook.com/kiokuisan>
ツイッター <https://twitter.com/nomorehibakusha>

発行者
NPO 法人 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会
〒102-0085
東京都千代田区六番町 15 プラザエフ 6F
Tel/Fax 03-5216-7757 (直通)
Email hironaga8689@gmail.com
郵便振替口座 00110-5-292881
口座名義 ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会

I. 第7回通常総会のご案内 (予告)	1
II. 未来につなぐ被爆者の記憶プロジェクトのご報告	2
III. 被爆者運動に学び合う学習懇談会＝シリーズ12＝ご案内	3
IV. 第3回理事会のご報告	4
V. 各部会の報告 資料庫部会／広報電子化部会・つなぐPJ	4
VI. 各地の取り組みから 【奈良】ピースかふえII	6
VII. 特別ニュース ～ノーモア・ヒバクシャ継承センター設立募金の取り組み～	8

I. 第7回通常総会のご案内 (予告)

北朝鮮の非核化をめぐる米朝首脳会談が重ねられる一方、トランプ米大統領は中距離核戦力全廃条約の離脱を表明するなど核のない世界に逆行する動きを強めています。核兵器禁止条約の批准を促進し、ヒバクシャ国際署名を広げ、「ノーモア・ヒバクシャ」の国際世論をさらに大きくすることが求められています。「ノーモア・ヒバクシャ継承センター」の設立と世界への発信は、その一翼を担うことになります。

さまざまな継承活動をはじめこの一年間の取り組みを振り返り、次年度は「ノーモア・ヒバクシャ継承センターをつくるため みんなで募金をはじめよう」を呼びかける取り組みを強めていきます。

第7回通常総会の開催を、次のように予告します。

- ◆ 日時 5月25日(土) 午後1時から4時まで
- ◆ 会場 東京四谷主婦会館 プラザエフ5階会議室
- ◆ 議題

《審議事項》

1. 第1号議案 2018年度事業報告(案)承認の件
2. 第2号議案 2018年度決算報告(案)承認の件
3. 第3号議案 役員改選の件

《報告事項》

1. 2019年度事業計画及び予算
2. 2020年平和博物館国際会議への参加

3. その他

II. 未来につなぐ被爆の記憶プロジェクトのご報告

(1) 東京都生協連が「被爆の実相とデジタルアーカイブ 新たな継承の体験会」を開催

3月6日(水)、東京都生協連会館で、東京都生活協同組合連合会主催、東友会と日本生活協同組合連合会、ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会の協力で、「被爆の実相とデジタルアーカイブ 新たな継承の体験会」が開催されました。都内6生協から平和担当者・組合員理事など18名、被爆者6名、事務局など8名が参加し、3グループに分かれ1グループに2名の被爆者と交流しました。みなさん最初は緊張していましたが、時間が経つにつれ和やかな交流になりました。



(2) ミニ企画⑧「被爆者のお話と茶話会」を開催

2月24日(日)、未来につなぐ被爆の記憶データ化プロジェクトが主婦会館プラザエフでミニ企画⑧「被爆者のお話と茶話会」を開催しました。メインスピーカーは継承する会理事でもある大岩孝平さん(87歳)、受け継ぎ手は20代~60代まで8名でした。以下、参加者の感想をご紹介します。

- 誰かが話し、書きつたえていかないとなくなってしまうという危機感が、大岩さんが体験をお話しされるきっかけになった。被爆体験は一人ひとり違い、受けとめる側がそれぞれの体験をしっかり受け止めてほしい、という言葉も深く心に残りました。
- 仲の良かった近所の子と喧嘩して仲直りできないまま会えなかった、という言葉が心に残りました。今回は直接お話を聞くことができ本当によかったと思いました。言葉だけでは伝わらない悲しみが伝わってきたように感じました。



○気持ちに大きな苦しみを抱えながらも、こうして次世代につなげられるように語って頂いているので、私も頑張らなければならないと思いました。

(3) 【埼玉】3/31 (日) 春休み親子企画『親子で学ぶ げんばくってな〜に』のご案内

「未来につなぐ被爆の記憶」データ化プロジェクトは、継承する会が収集した各県被爆者の会の発行した体験記集をPDF化して「未来につなぐ被爆の記憶」で公開していくためにスタートしました。PDF化（データ化）作業だけではなく、体験記を読んだり、ミニ企画として「被爆者のお話と茶話会」なども企画・開催しています。

今回、データ化作業にボランティアで参加している小学生のお子さんをもつコープみらい組合員さんの発案で、春休み企画として「親子でまなぶ げんばくってな〜に？」をコーププラザ浦和（JR南浦和駅下車）で開催することにしました。小学校低学年のお子さんでも平和や原爆について学べるイベントです。直に被爆の体験を聞いて、親子で感じたこと話し合っ、感想を「未来につなぐ被爆の記憶」として発信してみませんか。

ヒロシマ・ナガサキを語り受け継ぐ
春休み親子企画
親子で学ぶ
げんばくってな〜に?
のご案内

被爆者のお話を聞いてみませんか？ 小学校低学年のお子さんでも平和や原爆について学べるイベントです。直に被爆の体験を聞いて、親子で感じたこと話し合っ、感想を「未来につなぐ被爆の記憶」として発信してみませんか。

【スケジュール】
13:00 開会
13:05～15:05 体験記集「げんばくってな〜に？」について学習！
13:20～ 被爆者の方のお話
広場で2歳の時に被爆した坂下裕子さんのお話、ピースボートに乗って海外でも自分の体験をお話されています。海外でのお話も聞けるかも。
13:50～ 休憩
14:00～ お話の感想を親子で話し合っ、感想をまとめよう
14:20～ 感想交流とマヒング
マヒングされている坂下さんの証言の後に感想を伝えます。

日時：2019年3月31日（日）13時～14時45分
場所：コーププラザ浦和4F会議室
*駐車場はありません。公共交通機関でお越しください。
（さいたま市南区南本町2-10-10 JR南浦和駅下車）
募集：親子一組2名×10組（先着順）
参加費：親子一組300円
参加申込：
件名を「3/31春休み親子企画参加希望」として、
お名前、連絡先を明記の上、E-mail:hironaga8689@gmail.com まで
企画・運営：
「未来につなぐ被爆の記憶」データ化プロジェクト

《企画概要》

日時：2019年3月31日（日）13時～14時45分

場所：コーププラザ浦和4F会議室（さいたま市南区南本町2-10-10 JR南浦和駅下車）

募集：親子一組2名×10組（先着順）

参加費：親子一組300円

参加申込：

件名を「3/31春休み親子企画参加希望」として、

お名前、連絡先を明記の上、E-mail:hironaga8689@gmail.com まで

詳しくは継承ブログ (<http://keishoblog.com/?p=2416>) をご覧ください。

Ⅲ. 被爆者運動に学び合う学習懇談会＝シリーズ12＝のご案内

松田忍さんが問題提起「被爆者運動の自立を戦後史に位置づける」

2015年に始まった継承する会の「被爆者運動に学び合う学習懇談会」シリーズ12回目は4月13日（土）に開催することになりました。

2013年から愛宕事務所での被団協運動史料の整理作業を指導してこられた昭和女子大学准教授の松田忍さん（人間文化学部 歴史文化学科）をお招きし、被爆者運動の自立を戦後史に位置づける」をテーマに問題提起をしていただきます。

昨秋、学園祭で「被爆者に「なる」」をテーマに研究発表した学生らに、「偉い」との反

応が寄せられたことに、「もし被爆者運動が現代史にとって持ちえた意味が誰の目にも明らかならば、被爆者運動を研究することは「偉い」どころか、当たり前に必要なはず」だという松田さんは、「被爆者の運動が世界の意識を変えてきた歴史、あるいは運動がぶちあたってきた「壁」の側の歴史も含めて、被爆者運動をより開かれた形で、現代史に位置づけていく必要がある」と語っています（「被団協」新聞、第480号、2019.1.6）。

学習懇談会の詳細は同封チラシをご参照ください。申し込みはチラシ裏面の申込書（FAX）、またはメールにて。必ず事前にお申し込みくださるようご協力をお願いします。

IV. 第3回理事会のご報告

3月9日（土）午後1時半から4時半まで、東京四谷主婦会館プラザエフ会議室で開催しました。審議事項としては、2019年度事業計画（案）、募金活動の展開方針について、2020年平和博物館国際会議への参加、第7回通常総会の議題と運営について、協議しました。電子図書館（デジタル・アーカイブス）構築に向けデータベース化のためのサーバーを開設、体験記・手記のHP上の公開と資料の寄贈の呼びかけを行い、「継承センター」の設立準備を着実にすすめること、本格的な募金活動を展開しセンター設立を実現する方針、平和博物館とのネットワーク強化などについて検討し、4月27日（土）臨時理事会において総会議案として確認する予定です。

なお、報告事項として、第11回被爆者運動に学び合う学習懇談会、第1回財政委員会、東友会60周年式典への出席、「被爆者の声を受け継ぐ公開ミーティング」の開催、未来につなぐ被爆の記憶プロジェクトなどについて報告し、意見交換しました。

V. 各部会の報告

（1）資料庫部会からの報告

1）継承する会所蔵の体験記手記目録の公開について

継承する会が発足以来、現在までに収集・整理してきた書籍・冊子類のなかから、被爆体験記・手記・自分史等の目録を、継承する会および日本被団協のホームページで公開しました。<http://kiokuisan.com/>

目録はエクセルのデータで、ホームページからダウンロードもできます。

【みなさまへのお願い】

1. 当会では、原爆被爆者によって書かれた体験記・手記等を可能なかぎり網羅的に収集・保存することをめざしています。
 - 1) この目録に含まれていない体験記等（自費出版、私製版も含む）についてご存知の方は、その情報をお知らせください。
 - 2) 上記体験記等をお持ちの方でご寄贈いただける方は、ぜひご連絡ください。
2. 当会としては、できるだけ複数部数を備えたいと考えています。この目録で所蔵部数

3部未満の文献についても、ご寄贈いただければありがたく存じます。

※ なお、この目録についてのお問い合わせ・ご連絡は、下記（継承する会資料庫部会）へお願いします。

E-mail : info@no-more-hibakusha-archives.net

郵送先・電話・ファックス：日本被団協 気付

〒105-0012 東京都港区芝大門 1-3-5 ゲイブルビル 902

TEL 03-3438-1897/FAX 03-3431-2113

3) 春休み中の被爆者運動史料整理作業について

今年も2月28日から、春休みを利用した昭和女子大学の学生さんによる被爆者運動史料の整理作業が行われました。5日間に新メンバーも含めて延べ20人が参加。今回は、被爆60年の「わたしの訴え」、被爆70年の「被爆者と言いたいこと」の2つの調査の調査票や関係資料を中心に、各地の会からのニュースや被団協の発行文書などを整理しました。

ホチキスや金具の留め具をはずし、一点一点封筒に入れ、目録をとる、という作業をしながら、調査票にびっしりと書かれた被爆者のことばに引き込まれ、読み込む姿。自分の地元にも被爆者がいたと驚く人。初めて被爆者の生のことばにふれた人たちは、いろいろ感じたことも多かったようで、「戦後史史料を後世に伝えるプロジェクト」による聞きとりにも参加してみたい、と言っています。

2013年に始まった被団協運動史料の整理の経過を、松田忍先生が同大人間文化学部 歴史文化学科のブログで紹介されました。「被団協文書整理会のこれまでを写真とともに振り返る！」(3月9日付)。真剣に、かつ楽しくつづけられてきた作業のもようを、ぜひご覧ください。<https://content.swu.ac.jp/rekibun-blog/>

4) ご寄贈いただいた資料・書籍から

■ 故・丸浜江里子さんの資料

『原水禁署名運動の誕生』(凱風社)などを著し、昨年12月に亡くなられた丸浜江里子さん(享年66歳)のご遺族(夫・昭さん)から、この2月、段ボール16個もの書籍・資料をご寄贈いただきました。

東京の公立中学校の社会科教員をしていた丸浜江里子さんは、早期退職後、大学院で研究をしながら、原水爆禁止署名運動発祥の地元・杉並をはじめとする初期の市民運動を丹念に調べてきました。

寄贈資料には、原爆、ビキニ・福竜丸、原発に関わる書籍類のほか、安井郁氏(日本原水協初代理事長)らに関わる資料や初期運動を担った方々への歴大な聞きとり記録、さらに、林茂夫氏(軍事評論家)が遺された初期平和運動の資料も含まれています。

■ 森川 聖詩著『核なき未来へ 被爆二世からのメッセージ』(現代書館、定価3,000円)

+税) 著者および西河内靖泰さんからご寄贈いただきました。

著者は1954年生まれ、被爆二世。小学校時代の原爆がらみのいじめ・差別、受験時代に発症した顔面痛をはじめとする様々な体調不良、就職・結婚時の差別…、自身の辿った人生と数々の体験から「被爆二世問題」とは何かを問いかけます。また、両親から「自由にも言える今、絶対に同じ過ちを繰り返さないように、平和を築く努力と具体的な行動を積み重ねることが大切だ」と教えられてきたという著者は、そのための実例をいくつか紹介しながら、核なき未来へ一歩を踏み出すよう呼びかけています。

貴重な資料や書籍のご寄贈、ありがとうございました。

(2) 広報電子化部会・継承活動に取り組む人々をつなぐPJ

2月23日(土)夕方、主婦会館プラザエフの会議室でこれからの取材先などについて打ち合わせを行いました。

昨年10月の別冊発行以降のレポートは以下の2本です。

■ これまでの取材記事



(東京) 2019/2/24(日) ミニ企画⑧「被爆者のお茶と茶話会」に参加して～生き残る罪悪感と伝え残す使命感～

(埼玉) 201/3/25(日) 被爆者のお茶と茶話会に参加して～「顔の判らない兄と逃げた街」～

どちらも継承ブログでお読みいただけます。通信別冊としての発行は4月を予定していましたが、もう少しあとになりそうです。

VI. 各地の取り組みから

■ ピースかふえⅡ「被爆の記憶を次世代につなぐ」を開催しました

奈良県生活協同組合連合会

2019年3月23日、ピースアクションをすすめる会(奈良県生協連と9会員生協、ならこプ平和の会で構成)が「NPO法人ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会」(以下「継承する会」)事務局の栗原淑江さんを講師に迎え、「ピースかふえⅡ」を開催しました。会場のこプふれあいセンター六条には38人の参加者が集まり被爆者運動の歴史と証言の継承活動の話に熱心に耳を傾けました。

栗原さんは大学生の時に長崎被爆者の生活史調査に参加したことがきっかけで調査活動を継続、被爆者に「自分史」を書くよう呼びかけてこられました。日本原水爆被害者団

体協議会(以下日本被団協)の事務局を経て現在は「継承する会」で活動をしておられます。

2017年に国連で採択された核兵器禁止条約は前文で「ヒバクシャ」の容認しがたい苦しみに言及し、核兵器の完全廃棄の必要性を明確にしています。しかし世界でも日本でも核兵器廃絶は夢のまた夢とされた時期が続き、広島長崎の被爆者が命と人生をかけた今日までの運動はほとんど知られていないとして、栗原さんは今こそ「被爆者運動に学ぶ」ことが重要と強調されました。

調査と収集、研究に基づく運動の中で解明されたのは原爆投下が決して「受忍」できない人類史上未曾有の被害をもたらしたこと。しかし日米両政府の責任は明らかにされず、1980年厚生省のいわゆる「基本懇」意見では被爆者に原爆被害の「受忍」を押し付け国家補償要求を拒んだそうです。

栗原さんは、「日本被団協結成以来被爆者は、訴える

べきは訴え求むべきは求めながら自らを救うとともに、被爆の体験を通して人類の危機を救うことを運動の柱に貫いている」と話されました。

「継承する会」は被爆証言とともにこのような運動史の重要な資料も記録保存しています。栗原さんは会の活動や資料収集と保存・整理・活用の方法などについても詳しく紹介され、奈良の継承活動、そして各県との連携も進めていきたいとのこと。そして平和ライブラリーの機能を果たす拠点「継承センター」の設立も進めています。

続いて広島出身で奈良市在住の入谷方直さんが、今年の「ピースかふえ」で報告されて以降の県内被爆者の資料掘り起こし活動について報告しました。「わかくさの会」の前に存在した「奈良原爆被災者の会」の手掛かりが次第につかめてきましたが、調査をすすめるには個人情報への壁があるとのこと。

最後に交流の時間を持ち、参加者からはご自身の父上の被爆体験の紹介などがありました。またアンケートでは「次世代に伝えていくことは大切。記録も保存も頑張ってください。HPやいろんなところで目にできるといいですね。」「栗原さんのお話から、被爆者のたたかいを知り、そのうえで活動することの意味を感じました。」「被爆者の記憶遺産を継承するために、多くの人々の協力が必要です。よい機会だったと思います。」などの感想が寄せられました。



入谷方直さんと講師の栗原淑江さん



VII. 特別ニュース

～ノーモア・ヒバクシャ継承センター設立募金の取り組み～

昨年12月15日、「被爆者の声を未来につなぐ公開ミーティング」を開催し、ノーモア・ヒバクシャ継承センターの設立とそのため募金活動の呼びかけを、社会的に明らかにしました。東大渡邊研究室との提携による「未来につなぐ被爆の記憶プロジェクト」（被爆体験のマッピング）、武蔵大学生制作の映像作品「声が世界を動かした」（被爆者運動のドキュメンタリー）、昭和女子大戦後史史料プロジェクト（被団協運動史を戦後史に位置づける研究）、継承活動をつなぐプロジェクトなど、次世代を担う若者たちによる多様な分野での継承活動が紹介され、被爆者の皆さんをはじめ参加者に大きな感銘と共感を引き起こしました。被団協新聞では2019年新年号1面に報告者・司会者全員の集合写真と紹介記事が掲載され、各地の読者から多くの反響が寄せられています。

各県の現在の動きとして、神奈川県原爆被災者の会ではリーフレット「みんなで募金をはじめよう」を100部取り寄せ役員に配布、千葉県原爆被爆者友愛会では50部を友好団体に、800部を会員に、埼玉県原爆被害者協議会では500部を会員に、愛知県原水爆被害者の会では取りあえず200部を取り寄せ、配布しています。

2月28日現在、継承センター設立募金は、4,512,000円が寄せられています。まだ、募金は始まったばかりです、呼びかけを思い切って広げてください。リーフレットは、1万部用意してあります。FAXかメールでご注文下さい。